

東京都および都立築地産院における HBウイルス母子間感染予防の現況

多 田 裕
佐 藤 紀 子
(都立築地産院小児科)

1. 東京都におけるHBウイルス母子間感染予防対策事業実施状況

東京都では、昭和60年6月より妊婦のHBs抗原およびHBe抗原のスクリーニングを開始し、昭和61年1月からはHBe抗原陽性の母親から出生した児に対し予防処置を開始した。その実施状況は表1に示したとおりである。

東京都内での年間分娩数は約13万(59年:131,151)と推定されるので、昭和61年4月から10月までの実績からみると約85%は出生前にスクリーニングを受けているものと考えられる。

児に対する予防処置の進行状況についても表1に示されているが、どのような施設で予防処置が実施されているかなどの実態については、東京母性保護医協会の協力を得て現在調査中である。

2. 都立築地産院における予防成績

東京都立築地産院において昭和55年1月から61年12月までにHBe抗原陽性の妊婦から出生した児の経過は図1のとおりである。

垂直感染防止処置の対象となったのは311例であったが、2例は臍帯血のHBs抗原が陽性であるため防御対象から除き、309例に予防処置を行なった。予防処置を開始した例のうち6ヶ月以上経過している285例の内12例でHBs抗原が陽性となったが、2例は一過性で後にHBs抗体が陽性となった。この他にHBs抗体が陽性となったがHBe抗体も上昇したため一過性感染と考えられる例が3例あり、これらの児を除く270例中では、267例にワクチンによる能動免疫が得られ、HBs抗原抗体とも陰性は3例のみであった。なお当院ではHBワクチンは3回と限らず能動的なHBs抗体産性が認められるまでワクチンの追加接種をおこなっている。出生後2ヶ月からワクチン接種を開始し、1歳以上経過した86例中では4回以上のワクチン接種を必要としたのは13例(15.1%)であった。

以上の結果より、胎内感染例を含めても、HBs抗原陽性のキャリアとなったと考えられる例は4.2%で、一過性感染例1.7%を含め感染例は5.9%であり、全例の95.8%はキャリア化を防止できたことになる。

3. HBe抗原陰性の母親から出生した児の経過

同期間に当院でHBe抗原陰性のHBウイルスキャリア妊婦から出生した児は281例であった。これらの児のうち、予防処置を実施せずに出生後6ヶ月以上追跡し得た174例の経過を表2に示した。

母親のHB_e 抗原とも陰性であった児では 35 例中 3 例(8.6%)に HB_s 抗体が陽性となり、HB_e 抗体陽性の場合にも 139 例中 13 例(9.4%)がHB_s 抗体陽性となり、キャリアとなった児は認められなかった。

以上から、HB_e 抗原陰性の母親から出生した児はキャリアとなる例はなかったが 9.2%は一過性とはいえ感染を経験するので、今後はこれらの児に対しても予防処置を考慮する必要があると考えられる。

表 1. 東京都におけるHBウイルス母子間感染予防対策事業実施状況
(東京都衛生局母子衛生課資料)

	昭和60年 6月 -61年10月	60年 6月 -61年 3月	61年 4月 -10月
	HB _s 抗原検査	135,023	70,762
HB _s 抗原陽性	1,329(0.98%)	608(0.86%)	721(1.12%)
HB _e 抗原陽性	309(23.3%)	123(20.2%)	186(25.8%)
さい帯血HB抗原検査	145	32	113
出生直後末梢血 HB _s 抗原検査	27	5	22
HBIG (1回目)	147	31	116
1-2ヶ月時 HB _s 抗原抗体検査	142	13	129
HBIG (2回目)	137	9	128
HBワクチン (1回目)	137	9	128
HBワクチン (2回目)	126	1	125
HBワクチン (3回目)	74		74
6ヶ月HB _s 抗原抗体検査	52		52
HBワクチン (4回目)	11		11

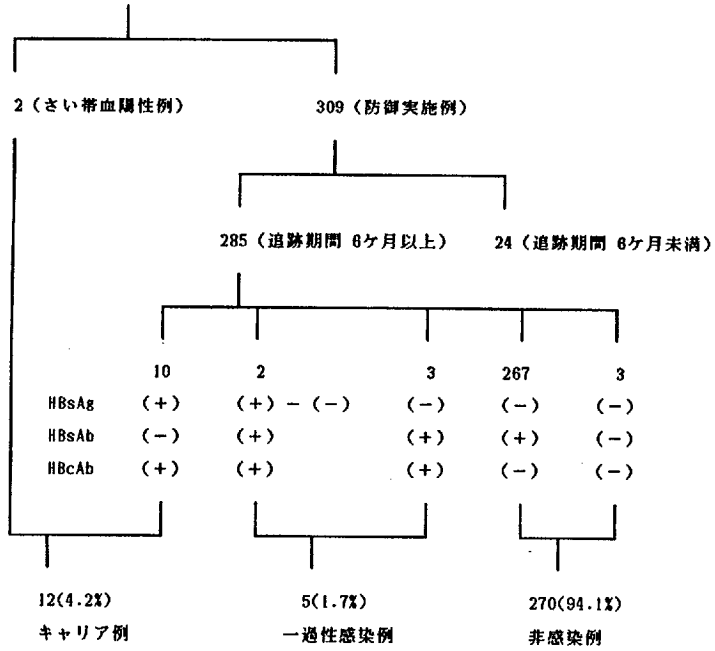
表 2. HB_e 抗原陰性の妊婦から出生した児の経過
(都立築地産院 昭和55年 1月-61年12月出生例)

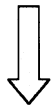
母親の HB _e Ag/HB _e Ab	出生数	予防処置をせず 6ヶ月以上経過した児				予防処置例
		合計	HB _s Ag/HB _s Ab			
			+/-	-/+	-/-	
-/-	62	32	0	3	29	9
-/+	239	129	0	12	117	46
計	281	161	0	15(9.3%)	146(90.7%)	55

図1. HBウイルス母子間感染防御の現状

(都立築地産院 昭和55年1月-61年12月)

311 (防御対象例)





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. 東京都における HB ウイルス母子間感染予防対策事業実施状況

東京都では、昭和 60 年 6 月より妊婦の HBs 抗原および HBe 抗原のスクリーニングを開始し、昭和 61 年 1 月からは HBe 抗原陽性の母親から出生した児に対し予防処置を開始した。その実施状況は表 1 に示したとおりである。

東京都内での年間分娩数は約 13 万(59 年：131,151)と推定されるので、昭和 61 年 4 月から 10 月までの実績からみると約 85%は出生前にスクリーニングを受けているものと考えられる。

児に対する予防処置の進行状況についても表 1 に示されているが、どのような施設で予防処置が実施されているかなどの実態については、東京母性保護医協会の協力を得て現在調査中である。